

デジタル・アーカイブの利活用

～学びの場での活用事例 NHK・Yahoo!ニュースから～

講義 9

ヤフー株式会社 クオリティ・コントロール室
立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科

宮本 聖二

自己紹介

- 1981年 NHK入社 鹿児島、鳥取、沖縄放送局
- 報道局解説委員室 アジアセンター デスク
- おはよう日本 チーフ・プロデューサー
- 編成局 海外ドラマ BS世界のドキュメンタリー
- 知財展開センター アーカイブス部
- FIAT/IFTA 國際映像アーカイブズ連盟」理事
- 「戦争証言プロジェクト」、「東日本大震災証言プロジェクト」
- NHK放送研修センター
- Yahoo!ニュース ケオリティ・コントロール室
- 立教大学大学院

映像コンテンツを中心とした
デジタル・アーカイブ

NHK戦争証言アーカイブス
NHK東日本大震災アーカイブス
NHK映像マップ みちじる
新日本風土記アーカイブス
NHK戦後史証言アーカイブス

Yahoo!ニュース 未来に残す
戦争の記憶

災害とデジタル・アーカイブ

災害の記録～地域の記録



福島・原発避難者



熊本・益城町 被災状況・被災体験



宮城・石巻、避難行動の記録

Copyright © 2016 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

「未来に残す戦争の記憶」

・戦争体験を動画で未来に

ヤフーオリジナル番組 全国のCATV局の番組 体験者の証言の動画

空襲に関する 市町村別被災データ

「未来に残す戦争の記憶」

他メディアとの連携・共同制作

①この取り扱いに新規取扱いIDでもっと便利に「ZAHOO! JAPAN」ログイン

YAHOO! JAPAN ログイン IDでもっと便利に「新規取得」

YAHOO! JAPAN ログイン IDでもっと便利に

みんなの思い

未来へつなぐ

戦争を知る

横浜米軍機墜落事件から40年

A person is sitting on a park bench, holding a smartphone. A large, semi-transparent play button icon is overlaid on the screen of the phone. The background shows a park with trees and a path. The text '解決米田製薬株式会社から出た' is visible on the left side of the image.

紙面・写真アーカイブを活用

事由 終點 の生 は現 は事

2016 Yahoo! Japan Corporation All Rights Reserved

Yahoo!ニュース

「未来に残す戦争の記憶」

他メディアとの連携・共同制作



琉球新報



1945年3月に始まった「沖縄戦」は、6月23日組織的脱闘が終結しました。住民を巻き込んだ激しい地上戦となり、多くの命が失われました。



“世界一危険な基地”

沖縄戦終結後、日本から切り離された米軍の面改下におかれました。米軍は、沖縄を軍事拠点とするため土地を強取して基地の整備・拡張を進みました。沖縄戦の終結は、住民と巻き添えにいた激しい地戦がつたことです。これにより老人や子どもを含む多くの住民が焼闇に巻き込まれました。

解説記事

うるま新報(琉球新報前身)の
紙面(アーカイブから)

沖縄戦の終結～基地の島・オキナワの始まり～
1945年3月に始まった沖縄戦は6月23日に日本軍の牛島満司令官の自決により、組織的脱闘が終りました。

沖縄戦の終結は、住民と巻き添えにいた激しい地戦がつたことです。これにより老人や子どもを含む多くの住民が焼闇に巻き込まれました。

© 2016 Yahoo Japan Corporation. All Rights Reserved.

YAHOO!
JAPAN

NHK戦争証言アーカイブス

[www.nhk.or.jp/
shogenarchives/](http://www.nhk.or.jp/shogenarchives/)

戦争と戦後の体験の証言を
体系的に収集・保管し
インターネットで公開
「社会的記憶の共有財産」に

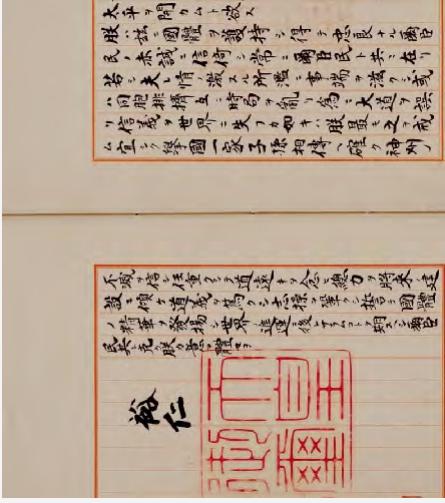
NHK戦争証言アーカイブス

〔5〕 關連番組98本 配信“記憶を記録に”

日本ニュース 256号



証言動画 1400人

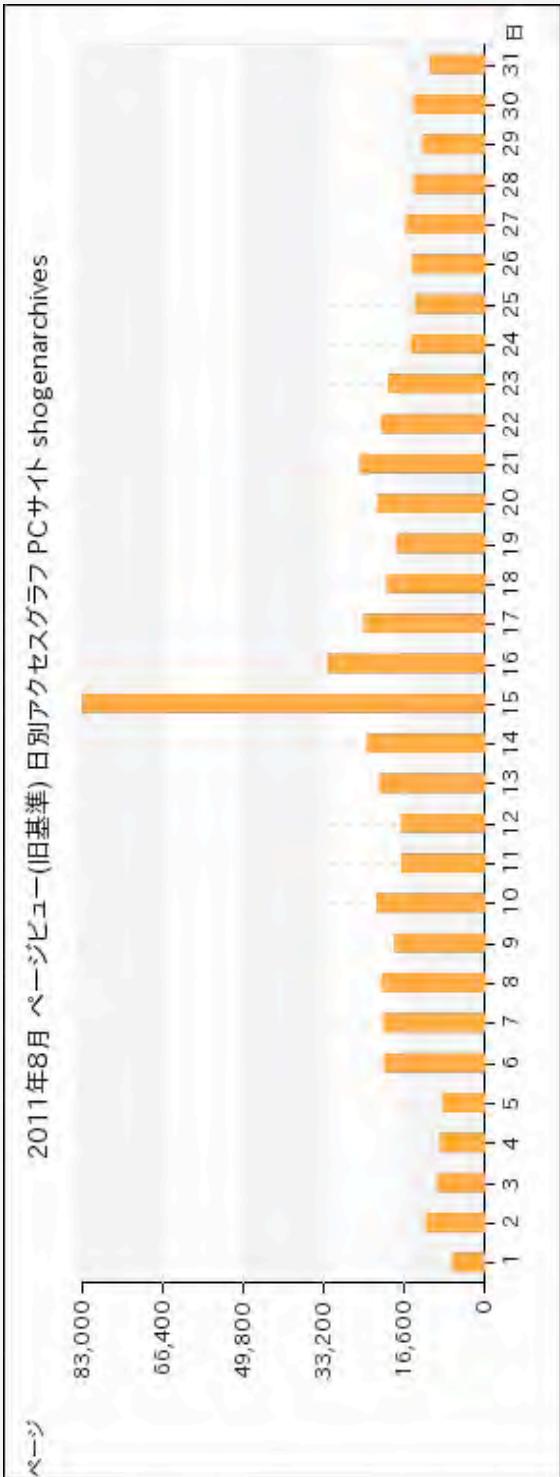


卷之三

Copyright © 2016 Yahoo Japan Corporation. All

「季節もの」にしないために

「NHK戦争証言アーカイブス」



課題：通年で利用者を確保すること

利用の拡大のために

- 誰が使うのか を想定

学校や家庭での教育利用

とくに、小学校から大学まで 教育現場で利用されれば
まとまつた数の利用者があるはず

- 教育活用のページを公開(2013年夏)

- 授業内で短い「解説動画」の提供
- 授業実施の働きかけ
- マニュアルになる資料の作成と配布

教育現場などで利用されるために

- 授業の映像を配信
- 見本・サンプルとして活用してもらう
- 年齢別にキュレーションページを作
- 中学・高校生向け 「女子学徒たちの沖縄戦」
- 小学生向け 「マンガで学ぶ戦争体験」
- 研究者による利用(論文作成など)
「戦争とトラウマ」



消えた女学校 女子学生たちの沖縄戦

1945年（昭和20年）3月からおよそ3か月間の地上戦で、20万人を超す死者を出した「沖縄戦」。いまの高校生にあたる女学校や師範学校の生徒が、戦場に駆り出され、多くの少女が命を失いました。しかも、戦争が終わっても、生き残った人々が戻るべき母校の多くは消え去っていました。沖縄本島の南部は焼壙と化していたのです。しかし、生き残った女性たちは、その中から立ち上がり、沖縄の復興を支え、そしてその体験から平和の大切さを伝える活動を続けてきました。

戦争当時の少女たちと同じ世代の、高校3年生 宮崎花澄さんが、女子学生として沖縄本島南部の戦場で過酷な体験をした方と共に、戦跡を訪ねました。花澄さんは、どんなことを感じたのでしょうか。

なごらん学徒隊・宮古高女学徒隊・八重山高女学徒隊の証言者を追加しました。（2014.08.06）

番組 女子学生たちの沖縄戦（19分26秒）

現在の那覇市域にあった女学校と師範学校女子部に在学していて、沖縄戦に動員された8人の方々の証言をもとに、入学した頃の様子から、沖縄戦、そして終戦後に至るまでの体験を、この番組では時間を持つたどります。この番組をご覧になつたあとに、ひとりひとりの女子学生のみなさんの証言動画を見れば、沖縄戦についてより深く知ることができます。



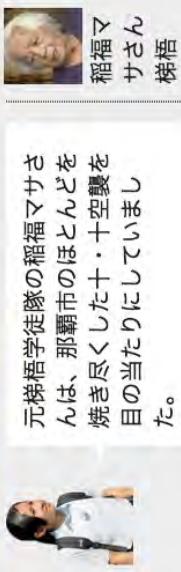
宮崎花澄さん | 沖縄県立南風原高校3年生
小さいときから、民謡や琉球古典音楽、琉球舞踊に取り組み、高校でも郷土文化コースで、沖縄の芸能を学び、郷土芸能クラブの部長をつとめています。花澄さん自身のおじいさんやおばあさんは、沖縄戦のときは幼かつたため、戦争の記憶がほとんどなく、戦争の話を聞く機会はほとんどなかったのです。



沖縄が、最初の戦火に見舞われたのは、1944年（昭和19年）10月10日の空襲でした。沖縄全域が空母から発進した爆撃機・戦闘機に襲われ、とくに、集中的に攻撃された那覇市は、炎壇に帰しました。この時多くの学校が校舎を失っています。



当時の話を聞いてみましょう



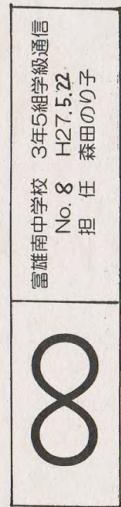
元梯梧学徒隊の稻福マサさんは、那覇市のほとんどを焼き尽くした十・十空襲を目撃しました。

稻福マサ子
梯梧（てい
ご）学
徒隊



当時の女子校の紹介 | 昭和高等女学校（梯梧学徒隊）
那覇市泊にあつた私立の昭和高等女学校は、設立が1932年（昭和7年）と、当時あつた女学校の中でもっとも新しい学校で、商業教育を柱としていました。「梯梧学徒隊」として、17人が陸軍第62師団野戦病院に動員され、9人が亡くなりました。

中高生 修学旅行の事前学習に



3年生になってのテスト。高校入試を意識しての定期テストとということもあり、昨年度とはちょっとがう、緊張感をどこで感じた2日間でした。今日の数学のテスト返却を経て、やつとテストが終わっていましたね。でも終わった後が、実は大切。タイミングを逃さず、間違えたところ、分からなかった問題を見直しておこうこれが、2学期に行われる学力診断テストへ、また高校入試本番へとながっていくのですから。

確かに学力をつけていくために、「この問題なら解ける」と確実に得点できる問題を一つ一つ増やしていくことだと思いますよ。自分の点数をきちんと受け止めてしまつかり見直しをしておいてくださいね。

さて、いよいよ修学旅行ですね。しぶりを手にして、ようやく修学旅行のイメージがでてきたと思ったら、修学旅行実行委員さんは昨年の3学期から、スローガンや約束事、持ち物の確認や平和メッセージ作成、折り鶴を一つにまとめる作業、そしていおりの原稿書きなど何度も何度も委員会を行い、ようやく5月25日を向かえることになりましたね。いろいろありがとうございました。

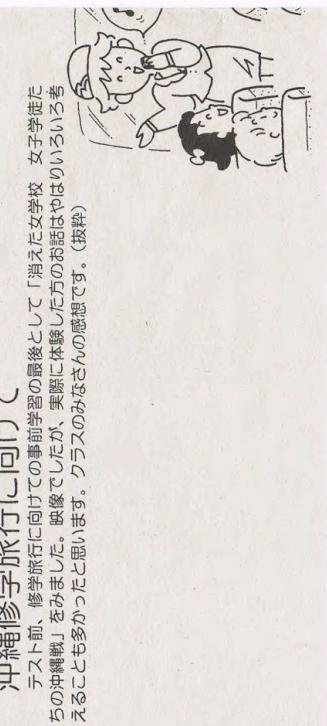
私が一番印象に残っているのは、「持ち物のカタログをどうするか？・おかしきをどうするか？」の話合いでした。贅否両論の意見、今までの私たちの行動に足りなかつたことを見つける事ができた時間だったと思います。

今までも、私たち3年生全員がルールを守らなければいけないのですが、一部の勝手だからこそ、自分たちで考えた約束事をしっかりと守っていくべきです。

今までも、行動が富雄南中学校がもつていていた約束が守れていません。行動が守れない人が、もしいたら、声を大にして言って下さい。

「いいかげんにして！ みんなの修学旅行を台無しにしないで（するな）と…。集団行動で大切にすべきことは何？ もう一度度しつかり答えておいてくださいね。

2015年5月 奈良・富雄南中学校
(NHK戦争証言アーカイブス)
2017年7月 長野・東御清翔高校
2107年7月 東京・科学技術学園高校など
(琉球新報～Yahoo!ニュース)



テスト前、修学旅行に向けての事前学習の最後として「消えた女学校 女子学生たちの沖縄戦」をみました。映像でしこが、実際に体験した方のお話はやはりいろいろ考えることでも多かったです。映像でしこが、実際に体験した方のお話はやはりいろいろ考えます。クラスのみなさんの感想です。(抜粋)

小学生向けの“編集集”

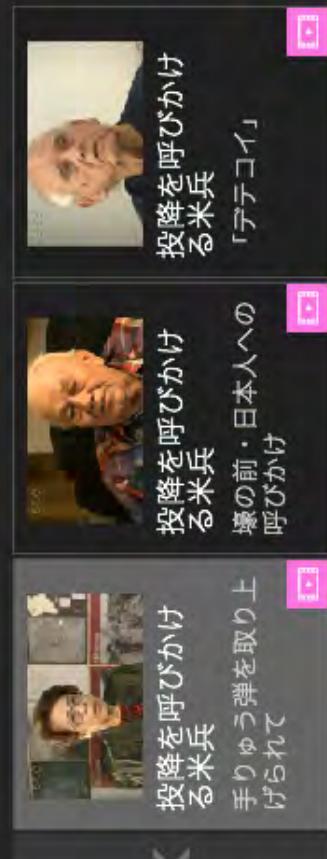


マンガで学ぶ戦争体験

Copyright NHK (Japan Broadcasting Corporation) All Rights reserved.

小学校生のためにキュレーション

投降を呼びかける米兵
手りゅう弾を取り上げられて



教員による実施報告を共有

小学校6年 社会	石川県金沢市立小坂小学校	山口真希 先生
	「戦争中、人々はどんなくらしをしていたのか ～マンガで学ぶ戦争体験～」	

項目	内 容
1 戦闘をつかむ	● 手 順 「戦争正義アカイブス」の「戦争」を学ぶ日本ニュース報2517号を読みし、学習課題を答える。 ● 指導のポイント 広島の町口が爆滅された爆子を全員で朗読し、その感想を話し合うことで学習課題につなげる。
2 戦争の広がりを知る	● 手 順 資源を求めてアシアを支配しようとして米英など対立し、戦争の広がりを年表や地図にまとめる。 ● 指導のポイント 「戦争を学ぶ国際動画」の「太平洋戦争」を視聴し、戦争の広がりを年表や地図にまとめる。 少しづつ止めながら現実し、年表や地図に記入しながら学習を進める。5分2.3秒の短歌選手でを朗読し、沖縄戦以降は戦で学習する。
3 戦闘中の生活を調べる	● 手 順 戦闘中の生活の様子について調べ、国民生活のすべてが戦争に左右されたことを記する。 ● 指導のポイント タブレット端末で「マンガで学ぶ戦争体験」第6節まで読み、戦時中の生活についてわかかったことを表にまとめる。
4 開べたことを発表し意見交換する	● 手 順 戦闘中の生活の様子について調べたことをともに意見を交換し、理解を深めらる。 ● 指導のポイント タブレット端末を活用し、自分のベースでじっくりマンガを読めるようにする。コマから再生できる戦争語彙や「ニースも用意に朗読し、理解を深める。
5 終戦時の人々の思いを考える	● 手 順 「集団隠匿」「学校出隠」「慰安船員」など、特に押さえたい事からは「マンガで学ぶ戦 ● 指導のポイント 争体験」の実境場面や動画を全員で再度視聴する。
	● 手 順 多くの犠牲を出した戦争が終わらなかった人々の気持ちを切り、平和の喜びを学ぶ。 ● 指導のポイント 「マンガで学ぶ戦争体験」の終話を読み、動画「終戦」を視聴する。体験者の証言から、人々の思いをひきだすを知る。
	● 手 順 「戦争を語る」が何を教える人の場面では、原の町出発を教えることでもないに終わる。 ● 指導のポイント 学習の最後には、人々にとって戦争とは何か、自分の言葉でまとめる。

授業のねらい

ウェブサイトの使い方

- ①単元の導入として、戦争語彙ーカイブスの「日本ニュース」、257頁を全員で朗読し、帽子脱帽によって伝説の田畠が櫻吹雪させられた様子を見た。感動した感想をもとに「日本がいくつもの軍と戦った戦争はどうなものだったか、そのころの人々はどういう生活をしていたか」という学習課題を設定する。

②敗戦が世界に広がつていったことを押さえるために、「戦争学ぶ新編戦闘曲」を朗読する。これらの動画は10分以内に短くまとめられ、子どもたちが集中して理解することができる。

③敗戦時の人々のくらしを調べるために「マンガで学ぶ戦争体験」を視聴する。タブレット端末で児童が各自のマイコンを読み進めていく。このマイコンがどこよりもどこよりも多くのページを読みこなすことができる。アイコンをタップすると連関する動画や写真を焼却できるので、もつと詳しく調べたい時には自由に操作して理解加深ができる。

調べてわかつことは、「衣食住」「子どもたちの生活」など項目ごとに表にまとめる。

に表にまとめる。

活用アイデア

東日本大震災アーカイブス

東日本大震災アーカイブス ～正直webルポガイド～

放送日
放送時間
放送場所
登場人物
監修者名
お知らせ
並置文本: 空から見た被災地を追いました。(2015/07/28)

復興の動線 空から見た被災地 3.11の惨象 防災・復興 放送予定

何が起きたのか

よく再生された動画 2015/6/28 - 2015/7/4

1. 3.11 19時46分 東京・放送七二・2 -

2. 3.11 19時46分 東京・放送七二・2 -

3. 3.11 19時46分 富士山・吉古見

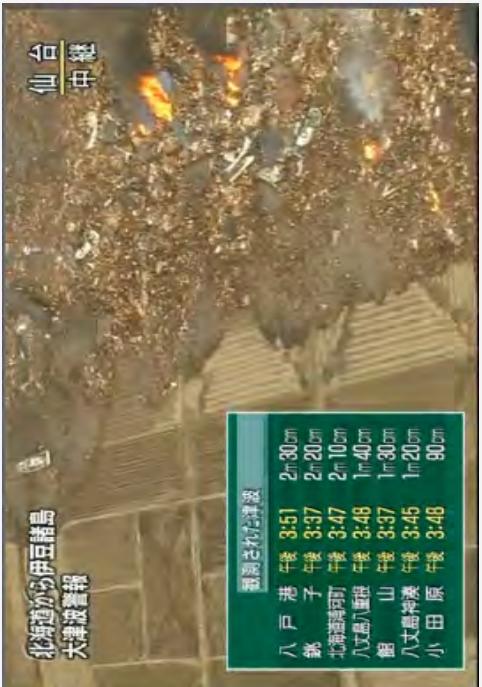
4. 3.11 19時46分 富士山・上笠

5. 3.11 19時46分 ごろ・福島県郡山市役所

6. 3.11 19時46分 富士山・吉田

7. 3.11 19時46分 福島県郡山市

明日へ
NHKデジタルアーカイブス
● NHKデジタルアーカイブス
● NHKのサイトについて FAQ ● お問い合わせ
● お問い合わせ一覧



初めてNHKのニュース映像をデジタルアーカイブ化



840人の証言



Jylgir © 2018 Jappali Corporation. All Rights Reserved.

NHKスペシャル5分版

YAHOO!
JAPAN

東日本大震災アーカイブス

●震災の記録の「保存と公開」

- ◆災害の記録を公開して、被災地の人々の記憶を留め、復興の支援に資する

●防災・減災のために

- ◆広く、より多くの人々に「あの日 何が起きたのか」「人々はどう行動したのか」を伝え、将来の災害発生時の被害、犠牲を抑えることに役立てる

地域と教育現場で「防災」の学びとして

□ 権利処理不要でどこでもだれもが視聴できる

学校での防災授業や社会人向けのワークショップ、防災専門家による講演での素材



- 12年7月8日 高知県南国市でワークショップ
東北大学 災害科学国際研究所、高知県、南国市
地元から70人が出席 東日本大震災アーカイブスで
「証言」動画などを視聴した後 地域の課題を議論
- 12年6月28日 東京多摩市の中学校で防災授業
避難訓練直後に視聴 その後意見交換など
防災意識を高めることがねらい



※2013年12月14日に沖縄の高校で授業を実施
高校側と授業案を制作 東北大今村教授が監修

アーカイブ上で映像や記録による“循環”

「これから起るであろう「震災」に備えるため、ぜひ「東日本大震災アーカイブス」を活用してください。
これまで学校や地域で活用された事例を映像でご紹介します。

防災授業の事例

-

2012年6月には、東京・多摩市の中学校でも活用されました。災害授業の前に行われた避難訓練の際に、生徒たちに実施したアンケート調査の結果と、「東日本大震災一卡通」の調査結果を組み合わせながら、授業が行われました。このアニメーションの動画を視聴することで、防災による真剣に取り組む姿勢が伝わるなど、先生も生徒の皆さんも話題になりました。

東京都多摩市立聖ヶ丘中学校での防災授業

学びの様子をテキストや映像ヨシテツツで紹介
この映像を参考に授業を再現してもらう

防災授業の共有



高等学校2年生と3年生 国語表現!



沖縄県立真和志高等学校
眞志堅奈美 先生
「東日本大震災の教訓から、沖縄での震災での備えを学ぶ」



※この授業は2014年5月に実施したものです。



授業のねらい

沖縄では、琉球王国時代の西暦1771年の八重山地震（「明和の大津波」）が引き起きた大津波で、宮古・八重山地方で1万2,000人の犠牲者が出ています。しかも、島々からなじみの震源は、海岸線は長く、海沿いの沿岸部が生活圏になっていて、地震や津波に対する備えが求められています。今回の授業の「めあて」は、「災害時に自分の身を守るにはどうすれば良いかを考える」とい、東日本大震災から教訓を学びます。

ウェブサイトの使い方

「国語表現」の授業の一環で、2時間にわたって行いました。事前にワークシートを用意し、サイトのコンテンツを視聴しながら、学んだことをまとめていくことをしました。まず、地震と津波のニュース映像を視聴して、現地の地震の届けの強さや破壊力を取扱うことになりました。こうしたニュース映像を見て、地震発生時に取るべき行動と、津波発生に備えて、いかに早く避難行動をとるべき行動を学びました。これまで1時間目終了、2時間目には震災生を意識してなじみの沖縄の言話を聞きました。最後に、琉球大学の中村徹准教授の話を聞き、沖縄で特に気をつけるべき点を学びました。

活用アイディア

地震の発生、津波の到来、生き抜いた人々の証言と、順を追って視聴することで震災当時の様子を知ることができます。そして、映像を運営から得た自然の脅威を映像によって理解することができます。映像によって文字や写真から理解できないことがあります。映像を見て学習した方の生の声が聞けるので、心に迫ってくるものがあります。また映像を見て学習したことを書き込むワークシートがあれば、学びが深まります。

地震が深まります。



指導案

項目

分類

内容

授業の「めあて」を確認し、映像から何を学ぶか方向づける。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業の「めあて」を書き出す。

白板に「めあて」を書き出す。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業の「めあて」を確認し、映像から何を学ぶか方向づける。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。

授業全員が授業を通して学ぶことを共有する。



指導案

項目

分類

内容

授業の「めあて」の確認

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント

指導のポイント



エコチャンネル

エコチャンネル

防災 証言 アーカイブス

東日本大震災 アーカイブス

防災 アーカイブス

ものねじはひねし

学校現場での利用を広げるために



すべての小中高校、特別支援学校に配布



YAHOO!
JAPAN

NHK東日本大震災アーカイブスを活用した授業の案 沖縄の学校編

NHK東日本大震災アーカイブス <http://www9.nhk.or.jp/311shogen/>

(URLは、Ctrlキーを押しながらクリックしていただけるとそのコンテンツが立ちあがります)

このサイトは、東日本大震災を記録し、後世に伝えることを主眼にしています。しかし、もっと大きな目標は、日本全国どこでも起こりうる「次」の災害に備えるために、「教訓」として活用いただくこと、特に若い世代に学んでいただくことです。

沖縄県でも、地震と津波の危険は切迫していると考えられています（琉球大学・中村衛准教授）

ぜひ、沖縄県の各学校でこのサイトを使って防災を学ぶ授業に活用いただきたいと思います。

授業の最大の「めあて」は、「自分の身を守るために」です。

自分の命を守ってこそ、誰かをサポートしたり、避難所の手伝いが出来たりするのです。 「東日本大震災」では、たくさん的人が津波に巻き込まれ、命を落としました。かろうじて助かった人の多くがまさか自分の身にこんなことが起きるなんて、と思っていたといいます。

このサイトの映像や証言を見て、こうしたことがいつ自分の身に降りかかってもおかしくないと考えてください。

■ ニュース

○ 地震

まず、地震の揺れを映像（当日のニュース映像）で知っていただきます。

2011年3月11日、あの日のNHKニュースで、伝えられているのは震度5から震度6の揺れです。

このニュースを見て、自らの安全を確保する時のヒントにしてほしいと思います。

沖縄本島では、2010年2月27日、「沖縄本島近海地震」が発生、糸満市で震度5弱を記録。けが人や住宅の破損もありました。

福島県郡山市の地震発生時のニュース映像



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030029_00000

茨城県茨城空港の地震発生時



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030037_00000

茨城空港は、震災のちょうど一年前の、2010年3月11日に開港したばかり、見たようにつり天井が落下して、結局この天井は撤去して、そのままにしているそうです。

こうした地震の揺れを伝えるニュースから学べるのは、つぎのことです。

- 1、 机の下に入り家具の「脚」をしっかりとつかんで、揺れが収まるのを待つ。
- 2、 無理に家具や冷蔵庫などを倒れないように押さえる行為はしない。下敷きになります。
- 3、 地震発生の途中で外へ飛び出さない→瓦などの落下物でけがをする。

○ 津波

宮城県

名取市の津波 1時間以上経過しての津波と油による火災



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030024_00000

このニュースで津波の速さを知ってください。

岩手県

釜石市の津波 地震から 30 分ほど経過して押し寄せた津波



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030049_00000

津波の高さが、いかに早く上昇するのかを知ってください。

福島県南相馬

地震から 2 時間程度経過した時点の様子



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007030032_00000

破壊力の強さを知ってください。

津波について大切なこと

沿岸部の人は、すぐに高台や指定された避難場所に逃げる。すぐに行動せずに地震の揺れで壊れたり、崩れたりしたもののあとかたづけをしていて、避難が間に合わず津波に巻き込まれた人が大勢犠牲になりました。

まず、やるべきことは、

- 1、避難場所を確認しておく
- 2、避難訓練に参加して避難所までの経路やその途中に何があるかなどを把握しておく。避難所に着いたら、決して海沿いの地域に戻らない。
- 3、停電等を考慮してラジオや防災無線などで津波の危険性などに関する情報を得る
- 4、津波の危険性があれば、あとかたづけなどはせずにまずできる限り早く高い所へ避難すること
- 5、災害発生時には、家族のことなどが気になってしまい、自らの命を守ることに集中できないので、災害発生時には家族と、全員が必ず避難するということと、連絡場所や落ちあえる場所を日ごろから話し合っておくと、安心して自分一人で行動ができる。

■ 証言

その 1

岩手県釜石市

姥名 有美さん 「絆に守られた妊婦」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010216_00000

この姥名さんの証言から学べることは何でしょうか。

大きく 2 つあります。

1 つは、福島の内陸部で育った姥名さんは、地震があると津波が起こるということに意識が及んでいませんでした。地震が起きたらすぐに津波が来ると考えることが大切です。

もう一つは、「助け合う、支えあう」こと、地震や津波の発生時も、その後避難生活でも、助けたり助けられたりして、生き延びます。きずなの大切さをかみしめてください。

その 2

宮城県石巻 (5 分間)

阿部翔人さん 高校生 「校舎に閉じ込められた」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010096_00000

(あの災害を高校生がどのようにうけとめたのかを知ることができ、子供たちは同世代の証言に共感しやすいのではないでしょうか。)

地震と津波、その後の閉じ込められた過酷な日々をどんな気持ちで、高校生が乗り切ったのか、自分がその時どうすればよいのかを考える、きっかけにしてください。

その3 (5分間)

宮城県気仙沼市

伊東征吉さん 町内会役員 「拡声器で叫び続けた」



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007010015_00000

地震発生後、即避難することを学んでください。そして津波がいかに早く押し寄せるのか、普段から避難訓練に取り組むこと、地域で災害に対する真剣な思いを共有することの大切さを知ってください。

■ 番組 NHKスペシャル 巨大津波その時ひとはどう動いたか (5分間)



http://www9.nhk.or.jp/311shogen/map/#/evidence/detail/D0007040002_00000

災害の時に、思い込みや不確かな情報で大きな被害が出ました。

ラジオや防災無線をしっかりと活用してください。

もうひとつ大切なのは、普段から、避難の方法や経路、避難場所を確認しておくことです。

■琉球大学 中村准教授による「南西諸島の地震と津波」

最後に、沖縄や南西諸島の地震について研究している「琉球大学 中村衛（なかむらまさる）准教授」のお話を聞いてください。これで「まとめ」とします。



中村先生のお話

- 1、「沖縄は、地震や津波が少ないというのは大きな誤解です。大きな地震や津波がいつ起きてもおかしくないと考え、備えが必要です。」
- 2、「琉球海溝での地震が発生したら、東日本大震災とは違って、すぐに津波が来る可能性があると考えてください。15分程度がめどです。揺れたら指定された避難場所にすぐに行くこと。」
- 3、「若い世代の方が学校で繰り返し津波の怖さを学んでいるので、危険性を知っています。皆さんも、こうした授業で身につけたことを家や地域で生かしてください。」

以下は、担当される先生方へのメッセージです。

■ 全コンテンツを視聴した後に

生徒一人一人の、今できている取り組みと、このコンテンツを見たことで、今後自分がやるべきだと思ったことを書き出してもらうのはどうでしょうか。

それぞれの生徒の生活環境（海から近い、高台にある、家族の中には海に近いところで働いているなど、さまざまな状況があるので）によって、その生徒にとっての防災におけるポイントは変わってくると思います。また、みんなの前で発表しあうと、今度はほかの生徒にとって参考になる話があるかもしれません。

■ 最後に

小学校から高校までの児童生徒のみなさんは、まず、災害と言うものに真剣に向き合う心構えを持つことが大切だと思います。学校や地域の避難訓練に、まじめに取り組むことを身につけてもらいたいと思います。そのためにも、ご紹介したコンテンツは大きく役立つものと思います。

東日本大震災では、明治～昭和と津波による大きな被害を受けた地域であったにもかかわらず、2万人に上る死者行方不明者がいました。

沖縄も、1771年の八重山地震（明和の大津波）で、先島地方で1万人を超す死者行方不明者がいました。津波の最大波高は、30mともいわれています。八重山では、住民の3人に一人の命が失われました。本土に比べて、地震が少ないと思われる沖縄ですが、それは大きな誤解で、大きな地震とそれに引き続く津波災害が発生しないという保証はありません。

琉球大学の中村先生によれば、実は他の都道府県と比較しても大きな地震の起こる危険性は、なんら変わることはないとしています。大きな地震と津波がいつ起きても不思議ではないと話しています。

また、こうして震災について学ぶことは、沖縄にひんぱんにやってくる大型台風など別の災害への対策に役立ちます。先日の、フィリピンレイテ島を襲った大型台風では、高潮で多くの命が失われました。このときの高潮はほとんど津波のようだったという被災者がいました。津波に備えるということは、こうした水害に備えることにもつながります。

このサイトを、災害にどう備えるのかをしっかり考えてるツールとして生かしてください。

NHK東日本大震災証言プロジェクト

宮本聖二

電話 03-5455-7866

携帯：080-5389-4878

Email:miyamoto.s-fi@nhk.or.jp

監修：東北大学災害科学国際研究所

デジタル・アーカイブによる学び 戦争体験の伝承と語りの継承

○宮本聖二¹⁾²⁾

ヤフー株式会社¹⁾, 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科²⁾

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町1-3

Tel: 03-6898-5433 FAX: 03-3439-1263

E-mail:smiyamot@yahoo-corp.jp

Utilization of “Digital Archive” For the Oral Histories of War

MIYAMOTO Seiji¹⁾²⁾

Yahoo Japan Corporation¹⁾, Rikkyo University Social Design Laboratories²⁾

1-3, Kioi-cho, Chuo-ku, Tokyo 102-0094 Japan

Phone: +81-3-6498-5433 Fax: +81-3-3439-1263

E-mail:smiyamot@yahoo-corp.jp

【発表概要】

戦後71年、戦争体験の伝承と継承が大きな課題になっている。体験者が高齢化し、直接話を聞く機会が失われつつあるからだ。

その中で、デジタル・アーカイブが戦争体験の伝承において重要な役割を果たすと考えられる。筆者は、戦争体験者の証言動画など関連コンテンツにメタデータを付けアーカイブ化、誰もがアクセスできるデータベース、「NHK 戦争証言アーカイブ」を制作した。その後ヤフーに移り、「空襲」に焦点を当てたデジタル・アーカイブを公開した。

NHK とヤフーのデジタル・アーカイブを閲覧することで、戦場から銃後まで日本人の戦争体験を幅広く見聞きすることができる。

しかし、デジタル・アーカイブはそこに「在る」だけでなく、できるかぎり多くの人に利活用されなければならない。そのために、様々なキュレーションを施し、ユーザーに利用を働きかけてきた。これまでどのようなコンテンツを作り、利用促進のために何をしたのか取り組みとその効果を報告する。

【キーワード】

デジタル・アーカイブ, オーラルヒストリー, 近現代史, 戦争, 教育

1. はじめに

戦争や震災などの歴史資料、国宝や重要文化財から祭りや民謡などの文化資源をファイル化して未来へ伝えていく「デジタル・アーカイブ」の役割はますます重要になっている。

筆者は、放送局とネットポータルで複数の映像資料を中心としたデジタル・アーカイブの構築と運営に当たってきた。そうしたなかでデジタル・アーカイブは、利活用がはかられなければ存続させていくことが難しくなっていくことがわかつってきた。組織としては、利用者がいなければ、こうした「デジタル・アーカイブ」に対して人手や予算をかけられないからだ。いったん公開すれば不斷にコンテンツを加えて「生きている」状態にし、有効な「キュレーション」を施して利用を促さなければならない。ここでは、「戦争」に関するデジタル・アーカイブをめぐってどのように利用者を増やし、伝承や継承のためにどういったことに取り組んできたのかその事例と効果について報告する。

2. NHK 戦争証言アーカイブス

2016年で、「アジア太平洋戦争」が終結して71年。この戦争は、アジア太平洋地域にはかりしれない殺戮と破壊をもたらし、日本人310万人を含む2000万もの命を奪ったとされる。生き残った人々にも心身に深い傷を残した。戦場の兵士は破壊や殺戮に手を染め、あるいは飢えや病に苦しみぬき、市民は空襲に襲われ、家族を奪われた。そして、まもなく戦争を体験し語ることのできる人々がいなくなろうとしている。そのとき「デジタル・アーカイブ」が戦争体験の伝承において重要な役割を果たすはずだ。

NHKでは、2007年「戦争証言プロジェクト」を立ち上げ、日本人の戦争体験を体系的に取材し、番組を作り放送してきた。そして取材過程で収集したインタ

ビューをできるだけ「生」に近い形で再編集、ネットの特性を生かしテキストや図を付けてインターネット上で公開したのが「NHK 戦争証言アーカイブス」である。



図1.「NHK 戦争証言アーカイブス」から証言動画視聴ページ・故 水木しげるさん

2016年現在、この「アーカイブス」で配信される戦争体験の証言者数は1100人を超える。証言動画は長いもので、ひとりで3時間近い証言動画がある。当該番組や戦時中のニュース映画、戦中のラジオ番組もアーカイブしている。

3. ヤフー「空襲の記憶と記録」

ヤフーでは、「NHK 戦争証言アーカイブス」で網羅できずにいた日本人の「空襲体験」を収集しデジタル・アーカイブを構築することにした。2016年夏に公開した「空襲の記憶と記録」である。

空襲体験者の証言を元にしたヤフーオリジナルの番組と全国のケーブルテレビ局が空襲をテーマに制作した番組、そしてその際収集した戦争体験者のロングインタービューを一人一人の生に近い語りを編集して10分前後の証言動画とした。そこに時事通信社の調査による全国の市区町村別の空襲被害のデータ(死傷者数、焼失面積や戸数、攻撃した爆撃機の機数など)を閲覧できるようにした。



図2. 「ヤフー空襲の記憶と記録」

4. 課題はアクセスの確保

こうしたデジタル・アーカイブは、公開後しばらくはメディアに取り上げられるなどして話題になることで、ある程度のアクセスは確保される。当然「終戦の日」など戦争が話題に上る時期にはページビューは増える。しかし、時間が経過するとアクセスが減っていく。

2011年8月の「NHK 戦争証言アーカイブス」へのアクセスデータを見てみる。



図3. 「戦争証言アーカイブス」2011年8月アクセス
8月15日に、ページビュー8万3000を記録するが、翌日には一気に下がり、8月末には1日あたり1万台に落ちた。

ヤフーの「空襲の記憶と記録」も同様である。8月15日に120万ページビューを記録したが、翌日には3万ページビューに激減した。その後はヤフートップから

バナーが落とされたこともあり、1日あたりのページビューは数千台で推移することとなった。

手をこまねいていては、8月の終戦の日前や12月8日の真珠湾攻撃などの、いわばアニバーサリーだけ視聴されるだけのものとなる。

5. 教育現場での利活用推進

これらのデジタル・アーカイブに戦争にまつわる日や季節に多くの利用があるのはもちろん当然として、つねに一定の数の、しかもまとまった数のユーザーが視聴してくれるを考えると、やるべきことはコンテンツを常に増やし続け、学校の授業など教育の場での利用を進めることである。

まず、月に一度は必ず証言や番組などのコンテンツを追加した。2009年、68人で公開を始め、2015年末証言者は1100人を超えた。しかし、コンテンツが増えればデータベースとしては充実していくが、利用者がコンテンツを探すことが難しくなり、利用者数は伸びなくなった。

そこで、教育現場での利活用である。まず、学校で「NHK 戦争証言アーカイブス」を活用する授業を実施してもらうことにした。2011年3月、埼玉県の朝霞第一中学校で、30年以上のキャリアを持つ中條克俊教諭が「NHK 戦争証言アーカイブス」の証言を視聴する授業を行った。生徒たちは、関東軍と戦後、中国共産党軍に看護婦として動員された女性とガダルカナルで餓えに苦しめられた元下士官の男性の証言を視聴した。

中條教諭は、「戦争体験継承の断絶状況が迫る中、それを解消する教材が、オーラルヒストリーとしての「NHK 戦争証言アーカイブス」」であるとしている。¹⁾

この授業についてはその様子を撮影して映像コンテンツにしてサイトで公開している。同じページに「ワークシート」と授業の前に行った生徒への「アンケート用紙」をPDFで閲覧できるようにしてある。同様の授業を、映像を見て再現できるようにしたのである。



図 4.朝霞第一中学校での授業

しかし、これだけでは教育現場での活用は進まなかつた。中條教諭のように、「戦争証言アーカイブス」というデータベースからコンテンツを探し出して戦争を伝える授業を組み上げられる経験豊かな教員は現在ほとんどいないからだ。

6. 教育用のページの付加

教員のだれもが戦争を学ぶ授業を開くために資する特集ページを作ることにし、2013年4月にスタートさせた。「教育活用」と名付けたページである。

多くの教員は平和教育の重要性は認識していても、戦争に関する知識を持つ者は少ない。そこで、5分から7分程度の戦争に関する映像コンテンツを作った。

「太平洋戦争」、「空襲」、「沖縄戦」、「勤労動員」、「疎開」といった番組である。戦争体験の証言の動画を視聴するにしても、そもそも太平洋戦争とはどのように始まり、どのような経過をたどったのかを知らなければ、体験を受け止めきれない。過去のアーカイブ映像を集めて、中学校の社会の教科書に準拠して制作した。

生徒たちが、このページのコンテンツを視聴して戦争に関する基本的な事象を

学び、その後に個々の証言の動画を視聴するという流れを提案したものだ。



図5. 教育活用のページ

7. 「活用ガイド」の制作と配布

上記の教育活用のページの制作と平行してさらに各地の小中高校の教員の方々に授業を展開してもらった。そして、その授業を「ねらい」、「サイトの使いかた」、「指導案」としてまとめてもらったレポートを冊子にして、全国すべての小中高校、特別支援学校に配布した。2013年の3月のことである。



図 6. NHK デジタルアーカイブ「教育活用ガイド」

教育活用ページの開始とこの冊子の

配布によってアクセス数が一気に増えた。学校での利活用が進んだのだ。

2011年、2012年を通して1日あたりのページビューの平均が4988だったものが、2013年度は8100を超え、2014年度には9000を超えた。授業を実施した教員からは、指導案を報告してもらい次年度の冊子に反映させ、「教育活用」のページで閲覧できるようにした。学校での授業を循環させていくためである。

8. 視聴対象を絞る

証言の動画は時間が長く、戦争に関する用語などもあり、子供や若者には理解しづらい。そこで、証言動画を使ったダイジェスト版の若者向けコンテンツを作ることにした。



特集 消えた女学校 女子学徒たちの沖縄戦

1945年（昭和20年）3月からおよそ3か月間の地上戦で、250万人を超す死者を出した「沖縄戦」。いわゆる戦争少女たる女子学生の経験が豊富な女性たちが語る「生き残りの物語」を多くお届けいたしました。

沖縄本島の戦闘は悲惨と化していました。しかし、生き残った女性たちは、その中から立ち上がり、沖縄の復興を実現。

そしてその体験から平和の大切さを伝える活動を続けてきました。

戦争経験の少女たちと同じ世代の、高校2年生 岩井花津さんが、女子学徒として沖縄本島南部の戦場で過酷な体験をした方と共に、戦跡を訪ねました。花津さんは、どんなことを語ったのでしょうか。

なごらん子供塾・岩井花津学徒像・八重山島名女子学徒の証言者を活用しました。(2014.08.06)

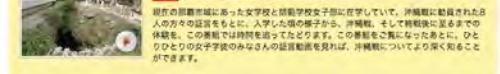


図7. 特集ページ「消えた女学校」

筆者は、視聴対象を中学生・高校生に絞った「消えた女学校～女子学徒たちの沖縄戦」という特集ページを制作した沖縄戦と動員された女子学徒の体験をテキストで記述しながら、その間に5分程度に編集した証言の動画を再生できるようにしたものである。「沖縄戦」の特徴は、今の中高生世代の女学校生などが、戦場に動員されたことである。その概要をドキュメントした20分の番組もここに置いた。

琉球古典音楽を学ぶ高校3年の女生

徒が、沖縄戦で軍の病院に看護要員として動員された女性たちを訪ね、沖縄戦について教えてもらうという内容だ。

この番組は、戦争体験者との対話と、過去数年かけて収集した証言の中から関連するインタビューを抽出して組み合わせた、「アーカイブ番組」である。

ねらい通り、このコンテンツは沖縄への修学旅行の事前学習で実際に利用された。2015年5月奈良県の富雄南中学校での授業だ。



図8. 奈良市立富雄南中学校での授業

授業を実施した松山美月教諭は、「実際の体験を、現地で聞かせてもらうことを追求したが、語り部の方の高齢化もあり実現が難しかったために、アーカイブの利用となった」と、直接体験を聞くことが困難になっていることを指摘している。

以下は、松山教諭の報告、「学習の流れ」からの抜粋である。

「事前に映像をすることで、どのような気持ちで当日の平和学習に挑めばよいのか示しておくことができた。」

「集中して視聴するか危惧したが、実体験の話は本当に心に届くようで、みな集中していた。女子生徒は、自分がもし当時に生きていたらと、自分に置き換えて感じるところが多かったようだ。映像とはいえ実体験を聞かせることができ、貴重な体験になった。」

9. 小学生に戦争を伝えるには

学習指導要領では小学校6年の授業で第二次世界大戦を学ぶことになっている。ここに応えようと制作したのが「マンガで学ぶ戦争」である。



図9.「マンガで学ぶ戦争体験」

サイト内に、マンガのページを置き、東京の商店街で洋品店を営む一家が、昭和16年から終戦まで何を体験したかを描く。長男の戦場体験、長女の日赤看護婦としての沖縄戦での従軍体験。次女は、女学校生として勤労動員され、三女は疎開を体験し、両親は物不足で店を疊む。さらに住家は空襲で焼かれる。全7話で読むことで戦争の様々な局面を知ることをねらいにした。

マンガのコマで表現されている場面と関連のある証言などの動画が、△マークをクリックすることで再生される。映像は1分から1分半。子供たちが理解しやすい部分を抽出して編集を行った。



図10. マンガから動画が“飛び出てくる”

2014年、石川県の金沢市立小坂小学でこのマンガを使って授業が行われた。授業を行ったのは教員になって15年目の山口眞希教諭授業。ねらいを次のように

に報告している。

「生活のすべてが戦争に捧げられた事実を理解するのは難しい。戦時下の国民生活を知り、苦しい生活を余儀なくされ家族を戦場に送り出した人々の思いにせまりたい」。²⁾

以下は、児童たちの感想である。

「マンガなので、興味を持って読み進めることができた。」、「マンガの方がイメージもしやすいし、登場人物のきもちや戦争の悲惨さがよく伝わった。」

山口教諭は、「アーカイブスは情報が多い分、必要な情報を取り出せないことが多い。必要な部分に必要な動画や情報が貼付けられているものは児童にとって使いやすい。」、「マンガであることから、登場人物に児童が感情移入しやすく、戦争学習に必要な『事象の押さえ』だけでなく『平和を願う心情』を育成することができる。」と、教育的効果があったと報告している。

10. おわりに

デジタル・アーカイブの利用者を増やすために、様々なキュレーションを施したり、教育の現場に働きかけたりしてきた。その結果、利用する教員の世代など幅が広がり、アクセスが増えたことはログ解析によってわかった。

しかし、本来のデータベースとしてのアーカイブ利用につながらなければアーカイブの本質を生かしきれないともいえる。アーカイブに触れた子供たちが、いずれは戦争をだれかに伝えるときの素材として使うようになる、あるいはこのアーカイブを元に研究に取り組むようになってくれることを期待している。

11. 参考文献

- [1] 「歴史地理教育」2015年8月号
- [2] 「NHK デジタルアーカイブス 教育活用ガイド」2015年版